Rich Dad Poor Dad Letter 創刊号

Robert Kiyosaki

金持ち父さんが、未来を見るための秘密のシステムを教えてくれた。そのシステムは、皆が気付いていない投資機会を指し示している…

ほとんどの人は、私のベストセラー本「金持ち父さん、貧乏父さん」を知っていると思う。

本では、貧乏な父として、私の実の父の話を書いた。貧乏な父は私に、学校に通って、良い成績をとって、良い仕事について、良い給料をもらえるようになれ…と教えてくれた。

しかし、金持ちの父は、資産を保有してお金を私のために働かせることを教えてくれた。

ただ、ほとんどの人が知らないことがある。それは、私にはもう１人、金持ちの父がいたことだ。

その人は、未来を見る方法を私に教えてくれたのだ。

このシステムを知っている人は多くはないし、金融の世界から生まれた方法でもない。

何年も前にその方法を知った時、私は時間と空間の直線性という限界を超え、真実を突き止めるべく物事を見始めるようになった。

人間の行動に関する真実。意義や工学の真実。建築やテクノロジーの真実。そしてお金についての真実。

この方法は、私のキャリアを通じ、人生のミッションを見つける助けになってくれた。

私の会社のひとつを成功させる助けにもなってくれたし、私が妻のキムと一緒に巨大な不動産帝国を築き、

Rich Dadの新規プロジェクト

「金持ち父さん、貧乏父さん」から21年を経て、私はこの特別な新規プロジェクトを立ち上げることにした。これは、今まであなたが購読した他のどんなニュースレターとも異なるニュースレターだ。

2人目の金持ちの父による、未来を予測する方法

私のもう一人の金持ちの父は、生涯で50の予言をした。そして、1983年7月1日に亡くなった時点で、そのうちの48が現実となっていたのだ。だから「彼は未来を見る方法論を知っていた」と、私は本気で言っている。

この方法論によって見つけられる、隠されたチャンス

ほとんどの人が注意を向けていない地平線の向こう側にこそ、チャンスがある。ここ数日、新聞の一面を騒がせている金融情勢における、隠された投資機会をお伝えする。

税金がかからないキャッシュフローを毎年生み出す助けにもなってくれた。

そして今、その同じシステムが、ほとんどの人が注意を向けていない、地平線の向こう側にあるチャンスを指し示している。ここ数日、新聞の一面を騒がせている金融情勢の陰に隠れている投資機会だ。

これからすぐに、内容をお伝えしていく。だがその前に、すべてをきちんと理解するために …

1967 年 4 月のある晴れた日に、時計を戻す必要がある。

当時 20 歳の私は、親指を突き出して、道路の脇に立っていた。

ニューヨークのキングス･ポイントから、未来の祭典、モントリオール万国博覧会にいくためにヒッチハイクしていたのだ。

万博の目玉は、何キロ先からも見える巨大なドーム型のアメリカ館「バイオスフェア」。

ドームは、現代における有数の天才とされる人物による設計で、私はその人物に会いに向かったのだ。

なぜなら､彼は未来が見通せると言われたていたから。

事実、その人は「フューチャリスト」という評判を得ており､「未来の祖父」というニックネームすらついていた。

未来を表現したこのドームを、アメリカ政府が「アメリカ館」として選考したのも納得だ。

私はその人物の講演を聞きにいったのだが、未来を実際に見ることのできる体系的な方法を話してくれるのを聞きながら､「私は変わらねばならない」と強く思った。この人から学ぶことが、沢山あるぞ、と。

そして、それ以降の私の人生が、それまでとは違ったものになる、ということも確信したのだった。

その人物の名前は、バックミンスター・フラー。

バックミンスター・フラーという人物は、ひとつの定義に当てはめられないため、「エニグマ（謎）」とも呼ばれている。

調べてみると、ハーバード大学は彼のことを卒業生代表のように扱っているが、実は彼はハーバードを卒業していない。実際は、どこの大学も卒業すらしていないのだ。

にもかかわらず、生涯で 47 もの名誉学位を受けている。

彼はよく、自らを「大したことない人間」と呼んでいたが、私は彼を「バッキー」と呼び、私のもう1人の金持ちの父であり、教師でもあると考えている。

“We are entering the world of the invisible.”

「私達は、見えないものの世界に突入している」

バッキーは私に、世界の仕組みや、精神面・肉体面・頭脳面・金銭面で真に豊かになる方法など、本当にたくさんのことを教えてくれた。

1983年に彼の著作「グランチ・オブ・ジャイアンツ」を読んだ後、私はなぜお金については学校で教えてくれないのか、理解し始めた。

「グランチ（GRUNCH)」とは、

Gross … 大きい
Universal … 世界的な
Cash … 現金
Heist … 強盗

という単語の頭文字をとった言葉だ。

その時まで、私は学校教育システムを批判する勇気など、持っていなかった。

多くの人たちと同じように、「学校や先生は、僕たちよりも頭がいいんだ。一番知識を持っているのは先生たちで、しかも僕たち生徒のことを最優先に考えてくれているんだ」と信じ込まされていた。

だが、学校に長くいればいるほど、標準化された教育の表面にあらわれる亀裂が見えるようになってきた。

そして、バッキーの本を読んだことで、世界の仕組みに対する言葉にできなかった多くの疑念、無意識に抱えていた多くの疑念が、確信に変わった。

なぜ学校は子どもたちにお金のことを教えないのか、私は理解しはじめた。現在の学校教育システムは、お金に関する教育が超富裕層・権力層にのみ与えられるように操作されている。

このシステムには、国や民衆の教育を高めていこうという意図はない。

ただ、従順な従業員、兵隊、消費者であふれた世界を作ろうとしているだけ。商品を買って、工場で働いて、代わりに戦ってくれる人員が欲しいだけなのだ。

バッキーのことを学ぶうち、私の怒りは増していった。

しかし、バッキーはネガティブな面ではなく、チャンスに対して行動を起こすことを通じて、人間の未来を良くすることにフォーカスしていた。歌手のジョン・デンバーも彼にインスピレーションを受けて、“What One Man Can Do（1人の人間にできること）”の曲の歌詞で「未来の祖父」と歌っているほどだ。

バックミンスター・フラーは2000件以上の特許を持つほど、歴史にもっとも名を残したアメリカ人の1人である。

生涯に50の予言をおこない、1983年7月1日に亡くなるまでに、50のうち48の予言が現実のものとなっていた。

彼の晩年の予言のひとつが、2000年を迎える前に、革命的な新たなテクノロジーが現れるだろう…というものだった。もちろんこれは、1990年より少し前に台頭しはじめたインターネットのことだ。

「バッキーは未来が見える」というのは、嘘じゃない

んだぞ！

モントリオール万博でバッキーの講演を聴いてから数年後、彼から教えを受ける機会に恵まれた私は、彼の方法論を直接学ぶことになった。

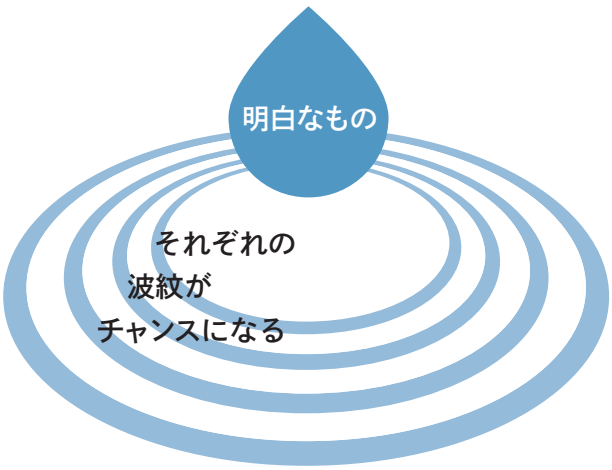
歳差（Precession：プリセッション）の力

バックミンスター・フラーは私に「歳差の法則」という重要なフレームワークを教えてくれた。

この法則を使って、未来をのぞき込み、本当に素晴らしい投資は何かを解読することもできる。

「歳差（precession）」という言葉は、物理学からきている。厳密に言うと、「歳差」とは回転軸自体が円を描くように振れる運動のことなのだが、もう少しシンプルに考えてみよう。

簡単にいうと、「歳差の法則」とは、私達がとるすべての行動から、90 度の副次的効果が生まれることを言っている。そして、その副次的効果自体が新たな道を生み出す（L 字型が形成される）。



別の考え方をしてみよう。静かな池に一滴の水が落ちたら、どうなるだろうか？

波紋が広がるはずだ。（* 落ちた水滴に対して 90 度（L 字型）に波紋が広がる）
それらの波紋は、一滴の水による副次的効果だ。

次に、ミツバチのことを考えてみよう。ミツバチは、花から花へと飛びながら移動して、ハチミツを作るための蜜を集めている。

ハチミツ作りが目的かのように行動しているように見えるが、真の目的（それよりずっと大きな目的）は、花に授粉することだ。

あまり知られていないバックミンスター･フラーの「歳差の法則」だが、これはビジネスにも投資にも当てはまる。IT 系のスタートアップ企業やパートナーシップなどが生まれることで、新たなチャンスという波及効果が生まれるのだ。物事の表面だけを見るのではなく、問いを投げかければ、チャンスはいつでも存在する。それを理解するためのシンプルだが効果的な方法が、歳差の法則なのだ。

1 つの取引が投資家にとってどう見えようとも、どこかでその取引から儲けている人がいる。

レストランが廃業しても、儲けている機材供給業者がいる。

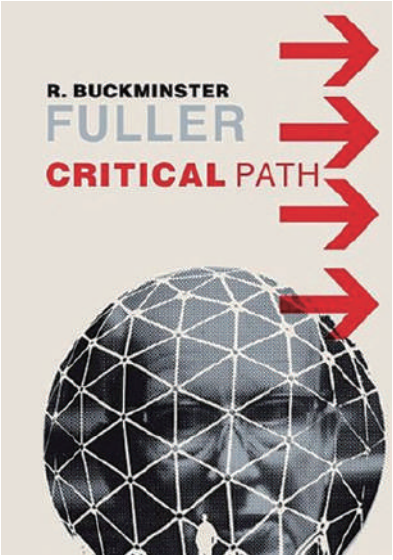
多くの社員が解雇されたとしても、儲けている壁の張り替え業社がいる。

ありきたりのことだけではなく、より深く物事を見通そう。直線的に見るだけではなく、ルールや時間さえも超えて見られる人にとって、事業の失敗 … という概念は存在しえないのだ。

加速するテクノロジーの加速

バックミンスター・フラーは以前「変化のスピードは飛躍的に速くなる。進化のスピードも累乗的に加速するだろう」と発言し、「今後 10 年の間に新しいテクノロジーが爆発的に進化するだろう。私達は見えない世界に突入している」と続けた。

テクノロジーによって変化が加速するため、もはや目



I highly recommend this book.

この本はとってもオススメだ。

に見えなくなっていくだろう … と。「目に見えなくなる」というのは、「加速する加速」という記事の中で彼が概念として言葉だ。

例として、彼は航空技術の急速な進歩を挙げている。

たった 1 世紀で、航空技術が驚異的な速さで進歩したことを考えてみてほしい。

1903 年に、ライト兄弟が初めての有人動力飛行に成功した。

1969 年には、人類が初めて月に着陸した。

1981 年に、NASA が初めてシャトルを打ち上げ、時速は 2 万 8000 キロを超えた。

そして今日、民間企業が宇宙旅行に乗り出し、火星の植民地化を狙っている。そのことについては後ほど話すが、これこそが「加速する加速」だ。

テクノロジーそのものや、テクノロジーによってビジネスが受ける影響は、これほどまでに急速なペースで加速しているため、もはや追いつくことが不可能なほどだ。

「私達は目に見えない世界に突入している …」

この言葉が、私に刺さった。

そう聞くと、まるで予測もできず、コントロールもできず、恐ろしいものに思えるかもしれないが、実はバックミンスター・フラーが他にも言った内容があり、それが私の興味をひいたのだ。

彼は「テクノロジーの進化の速度を計測することで、未来も予測できる。しかしその変化は速すぎて目に見えない …」と言ったのだ。

どういう意味だろう？

正確には、彼はこう言っている。「人間は車を見ることができる。その変化を見ることができる。もし車が自分のほうに向かってきたら、避けることができる」と。つまり、車を見ることができるからこそ、それに適応して自分も変化することができる。

「しかし、未来の発明は目に見えないものになるだろう」… と。

彼は、携帯電話技術のことを言っていたのだろうか？インターネットのことを言っていたのだろうか？

バックミンスター・フラーは「エフェメラリゼーション（短命化）の理論」を打ち立てた人物である。テクノロジーの進化により、「より多くのことが、より少ない（リソースで）できるようになり、最終的には何もなくてもすべてができるようになる」という理論だ。

バックミンスター・フラーが生きていたら、現在の情報時代の急速な成長について何を言っただろう …。私達には想像することしかできない。

情報が「いつでも」「誰にでも」手に入る世界について、彼がどう感じるか、想像することしかできない。

いま人類は、目に見えないうえに、理解もできないテクノロジーのイノベーションに、取って代わられよう

としている。多くの人のスキルがもはや不要になり、その結果、世界中で膨大な人数が職を失っている。

人間が時代遅れになっているのだ。

歴史上かつてないほどに、学校教育で学ぶ内容だけでは暗いシナリオしか描けなくなってしまった。大学２年生になった頃には、それまで育んできた専門性が時代遅れになっている。

Ephemeralization,n.
The ability of technological advancement to do "more and less until eventually,you can do everything with nothing"
—Dr.R.Buckminster Fuller

エフェメラリゼーション（名詞）
テクノロジーの進化の力により
「より多くのことが、より少ない
（リソースで）できるようになり、
最終的には何もなくてもすべてが
できるようになる」
— バックミンスター・フラー

しょうか」と勘違いする人だ。

「それはつまり、いま株式市場に投資しているなら、市場外でトレードするという意味ですか？」などと言うのだが、私からすれば、それはただのギャンブルだ。デイトレーディングは、カジノでサイコロゲームをプレイするのと何ら変わらない。むしろ、サイコロゲームをすれば無料でドリンクが飲めるから、そっちのほうが良いくらいだ。

私達はもはや、キャリアや給料だけに頼ることはできない。流行の会社を見つけて株で億万長者になることもできない。そのような日々は終わったのだ。富の秘密を見極めるために、より深く物事を見る自己訓練をしなければいけない。

バックミンスター・フラーの言う「加速する加速」の意味を理解した私は、先手を打つための断固たる行動を起こした。私は時代遅れになるつもりはない。景気が戻ってくるのを待ちぼうけするつもりもない。

私は飛躍的に加速する経済を先取りするために努力している。

あなたにも、ぜひそうしてほしい ...

歳差投資™ (Precessional Investing) の芸術

私はバックミンスター・フラーの教えを金融の世界に応用し「歳差投資 ™」と名付けた。

これは「投資初心者が見つける投資機会とは別の何かを見つける」という意味である。

よくいるのが、「今の投資戦略を少し調整することで

私の「歳差投資 ™」は、それとはまったく違う。様々な視点やリサーチが必要となってくるし、すでに教育を受けている投資家でさえも、投資を戦場のように見ることが必要とされる。

「土地」や「天候」、「地平線の向こうに何があるか」を知る必要があるし、「いつ前進するか」... そしてもっとも重要な「いつ撤退するか」を知っておかなければいけない。

単刀直入に ...

私が比喩を多用するのには理由がある。真の教師は専門用語など使わないからだ。専門用語を駆使するのは、秘密を隠しておきたい者たちだ。

いわゆる「専門家」たちは自らを知的に見せるべく「クレジット・デフォルト・スワップ」とか「ヘッジ」など、珍しそうな言葉を使って、一般人をおののかせる。どちらとも、ただの保険の一形態を指しているだけなのだが、まさか専門家が「保険」などという簡単な言葉を使うことは許されない。

専門家は、あたかも魔法使いのような特別な存在でなければならず、魔法のタネが明かされてしまってはマ

ズイのだ。

バックミンスター・フラーはこう書き残している。

「ずっと昔に亡くなった長年の友人に、巨大なモーガン家の一族の男がいたのだが、彼が私にこう言った。『バッキー、私は君のことが好きだ。だから恐縮ながら言うが、君は絶対に成功できないよ。だって君は、人がそれまで理解できていなかった複雑な物事を、簡単な言葉で説明してしまうからね。『複雑にできる事柄は、決してシンプルにしてはいけない』というのが、成功の第一法則なんだよ』」

私は常に、皆が使っているややこしい言葉をシンプルにして、要点を突くようにしている。そう、バックミンスター・フラーのミッションが「賢そうな言葉の裏に知識を隠すな」という教えを世界に伝えることだったように。

バックミンスター・フラーは、言葉の持つ力に関して確固たる信念を持っていた。講義でも「人類による最大の発明は言葉だ」と言っていたほどだ。

バックミンスター・フラーに教えを受ける前までの私は、言葉の持つ力を大事にしたことはなかった。言葉は誰もが使っているだけのものにすぎない、と思っていた。しかし実際は、言葉はあなたが欲しいものを手に入れるために使える道具にもなるのだ。

高校の英語の授業で2回も落第した私は、言葉の力を重要視していなかったのだが、それはつまり、自分や周りの人の人生を変えていく力を否定していたことでもある。

言葉は脳の燃料であることに、私は気づいた。そして脳は、あなたにとって最大の資産でもあり、最大の負債でもある。だからこそ、1903年に金融用語が意図的に教科書から取り除かれたのだと思う。

当時は、産業革命によって機械化時代に突入していった真っ只中の時代であり、次々生まれた巨大企業は生産ラインを稼働し続けるために、訓練を受けた作業員を必要としていた。

世界を牛耳る金持ち達は民衆に考えをめぐらせた。「どうすれば、労働のための訓練意欲を掻き立てられるだろうか…」そして、金持ち達はこう気づいたとされる。「いや、そもそも『働くか、飢え死にするか』という簡単な選択肢しか与えなければ、学習意欲を掻き立てる必要すらないのだ。」

「一般人から、お金の本当の仕組みを理解するためのツールや知識を奪ってしまえば、あとは『家族を養うためには死ぬまで働くしか選択肢がない』と勝手に信じるだろう」と。

こうして、「歳差」という考え方のお金への応用そのものが、何世代にもわたって人々から奪われてきた。民衆を自由にする力を持つ知識を奪うことで「働く」「給料をもらう」を死ぬまで繰り返す…という国家が成り立ってきたわけだ。

何も理解せず、陰謀者どもが使った言葉をそのまま鵜呑みにしていたら、私だって陰謀の人質・犠牲者・奴隷になっていたことだろう。それを知った時から私は「良い職につけ」「貯金しろ」「身の丈にあった生活をしろ」「投資はリスキーだ」「借金はダメだ」という言葉を使うのをやめた。

今でも、私達の子どもたちは、教育システムが私達に信じさせたいことだけを信じるような教育を受けている。

「手順を守りなさい」「深読みしてはいけません」「ルールを破ってはいけません」などなど。

だが子どもたちが現状維持の方法しか学ばなければ、見過ごしてしまっている物事があることにすら気づかないだろう。

教育の鍵は、歳差からのチャンスを見つけることである。

しかし、ほとんどの人は、バックミンスター・フラーの「歳差の法則」を知らない。

学校は労働力を確保するために作られているため、「『成功』するための道は1つしかない。就職し、給料をもらい、政府から社会保障を受け、昇進し…」と、私達もずっと聞かされてきたストーリーを、学生に教えているのだ。

「成功への唯一の道」
～学校教育編

1. 就職する
2. 給料をもらう
3. 最優秀社員になる
4. 昇進する
5. 昇給する
6. 繰り返し

…だから、高い教育を受けた人でも貧乏なままなのだ。

また「その道から逸脱することは破滅を意味する」と教えてきたし、これからも教えていくだろう。

こんなゴミを信じた学生たちは、大手銘柄の株を一生持ち続けるか、もしくは政府というマシンにお金を吸い取られながら、長年耐えながら続けてきた血と涙と汗がいつか報われますように…と祈っているだけだ。「有名な会社」というだけでは配当が約束されるわけではないことすら露知らず、集団自殺を待つかのように崖をめざして、アマゾンやアップルの行列のあとを付いていく人が、どれほど多いことか。

現在の最大の例：テスラ

これを書いている今、イーロン・マスクの会社であるテスラがニュースを騒がせている。

これは、本来であれば歳差投資 ™ を探していくべきなのに、人々が表面にしか注意を向けていないことを表す完璧な例だ。

華やかなブランド力を持つテスラが、過大評価された株を教養のない投資家にオファーしているのだ。

スティーブ・ジョブズはかつて、ラップトップの発表会で4時間の基調講演をおこない、スーパーボウルの試合と見紛うほど世界の目を釘付けにした。

そして今、イーロン・マスクも自らのスター性を活用しながら、ビジョンや先進技術を操る会社を生み出し、未来に生きるという夢を実現しようと約束している。民間企業における宇宙探索や、「宇宙家族ジェットソン」を思わせる大量輸送システム、そして個人宅用の火炎放射器にまで手を伸ばすことで、ニュースを独占している。（私のチームメンバーがイーロン・マスクのボーリング・カンパニー社製火炎放射器を持っていたので、以下に写真を載せる。）

しかし、こういった話題がなくなったあと、イーロン・マスクの会社に何が残るというのだろう？

魅力的ではあるし、イノベーションにも期待感にもあふれてはいるが、正直言ってまだ利益を出せていないのだ。

たしかに、アメリカのどの大都市でもテスラの車が走っているし、スペースXにおいては低軌道ロケットを飛ばし、自己発電にて無事に地球に帰還させるミッションの責任も担った。（これはNASAでさえ成

し遂げなかった偉業だ。）

地球人としての私は、これをすごいことだと思う。

しかし、投資家としての私は、まったく見向きもしない。

コインの３番目の面を思い出そう

ここ数週間、ニュースでも新聞でも、イーロン・マスクのツイッターへの沢山の投稿が目に飛び込んでくる。

天才は最高だ。次に何をしてくれるか、誰にも分からないから。

同時に、天才は最悪だ。次に何をしでかすか、誰にも分からないから。

あなたがイーロン・マスクを天才だと思うかどうかには関係なく、彼が「ココロの先輩」とも言えるスティーブ・ジョブズと同じ予測不可能性と不安定性を備えていることは、認めざるをえない。

スティーブ・ジョブズは製造における要求では妥協しないことと、気分が予測不能なことで知られていた。不運にも４階のエレベーターでスティーブ・ジョブズと乗り合わせてしまったら、ロビーに降りる頃にはクビにされているかもしれない、と言われたほどだ。

ただスティーブ・ジョブズは、ソーシャルメディアには関心を寄せていなかった。

一方、イーロン・マスクは、思考を自分の中にとどめておくことができないらしく、強迫的ともいえるツイート習慣を持っているように見える。

一般人にとっては、アツくなっている時のツイートは「恥ずかしかった…」で済むかもしれないが、大企業の CEO ともなると、まったく別の話になる。

イーロン・マスクのたった１回のツイートが、テスラの投資家を激怒させることもあるのだ。

というのも、現在はイーロン・マスクが口を開けば…いや、むしろ携帯電話を取り出せば、テスラ株が急落するような状況なのだ。

インターネット中を駆け巡った、８月７日のツイートを見た人も多いはずだ。

「1 株あたり 420 ドルでテスラの非公開化を検討している。資金は確保済み」

彼は株価を操作しようとしたのだろうか？

本気なのか？

それとも酔っ払っていたのか？

私にはわからないし、その辺はどうでも良いことなのだ。

私が初回号の冒頭に書いた内容を思い出してほしい。

コインには、表・裏・側面の３面がある…と。

真実は、白黒ではなく、グレースケールの中に存在する。同時に２つの視点を持てる能力こそが、強い投資家になるために必要なのだ。

だから、問うべきは…

「テスラの業績に関係なく、儲かるのは誰か？」

という質問なのだ。ここで、歳差投資 ™ に話を戻そう。

歳差投資では、他の皆が注目している表面上のチャンスに目を向けてはダメだ。

その表面上のチャンスから生まれる他の道筋すべてと、そこに至るまでの道筋すべてを検証するべきなのだ。

あなたには、最初に現れた「明白な」チャンスから引き起こされる、波及効果としてのチャンスを見てほしい。そういったチャンスのほうが、断然オイシイ場合があるからだ。

いったいどういうことなのか … もう少し説明しよう。

歳差のおかげで、ロックフェラーは常にお金を手にしていた

ジョン・ロックフェラーによって創業された、スタンダード・オイル社。

現代史における最大の大富豪によって経営され、アメリカの歴史においてもっとも成功した会社と考えられている。

ロックフェラーは、スタンダード・オイル社を通じて1870年代に富を手にした。

つまり、ロックフェラーは石油生産に投資することで裕福になったわけだ。

え？それだけ？ … と、衝撃かな？

ここがポイントなのだが、彼は石油に投資するだけでは満足せず、梱包（石油には樽が必要）や輸送（オハイオの鉄道の駅のある石油をカリフォルニアで燃焼させることはできない）を通して、巨額のチャンスが眠っていることに気づいた。

その考えが正しいことを確認するために、ロックフェラーは歳差の力を使い、明白と思われるチャンスの先を見通し、かなりの財産を貯蔵施設および発展段階の米国中を走り回っている鉄道への影響力強化のために投資したのだ。

すでに超億万長者だったのに、なぜさらにそこに投資したのか？

それは、「自社の石油から利益を得る」よりも唯一優れていることは、「他の人々の石油使用から利益を得る」ことだから。

ロックフェラーがその仕組みを完成させた頃には、もう逃げ場はなかった。

石油を燃焼したい時は、ロックフェラーに金を払う。
石油を貯蔵したい時は、ロックフェラーに金を払う。
石油を輸送したい時は、ロックフェラーに金を払う。

ここでの教訓はシンプルだ。

ロックフェラーのように歳差の力を使うべし。チャンスを１つ見つけたら、その周りのチャンスを探そう。それと関連して、またイーロン・マスクとテスラに話を戻そう …

テスラ弱気派 … テスラ強気派 … テスラ歳差派

これを書いている今、ブルームバーグはこう報じている。「火曜日にイーロン・マスクが会社を非上場化する、という挑発的なツイートして以降、証券取引委員会はテスラへの監視を強化している。」

「テスラ弱気派」の賢い投資家たちは、これは終わりの始まりだから空売りをしかけろ、と言う。

「テスラ強気派」の賢い投資家たちは、今こそが買いのチャンスだと言う。

では、「歳差投資派」の私は、どう考えるか？

イーロン・マスクがある意味不安定なのは皆が知っていることなので、その不安定さの後ろに何か困難が起こっているはずだ … と考える。

ここ数ヶ月のニュース報道を見てみると、もう少し大きな絵が見えてくる。

ウォールストリート・ジャーナルによると、テスラは同社にとって最大のサプライヤーに返済を迫っているらしい。どうやら必死で利益目標とのギャップを埋め、欠如している運転資本を確保しようとしているのではないか … と報じられている。

下請け会社に対して頭を下げて現金を乞うているなんて、好ましい状況ではないことくらい、優秀な専門家じゃなくてもわかる。

他にも、テスラは事前予約車の登録システムにおける 1,000 ドルの払戻可能の前金制度を終了し、代わりに 2,500 ドルの返金不可の前金制度を開始する、という決定をした。これもまた心配だ。

もしあなたが、ただ単に「テスラがラインナップを拡大するかどうか」に基づいてだけ投資判断をしていたなら、特に心配は感じないかもしれない。

イーロン・マスクは自社のラインナップを商用車、SUV、軽トラック、住宅エネルギー事業（太陽光まわりの構想も示唆している）にまで拡大していることを、嬉々として語ってくれるだろう。

ただ、テスラ社は、前金制度を変更する前の時点で、モデル 3 には 45 万 5,000 台の予約が入ったと述べているが、独立系アナリストによると、実際の台数はそれよりも 10% ほど少ないとの見方だ。

テスラが台数を誇張しているという事なのか？

それとも、制度変更の発表にとって、盛り上がりが衰えてしてしまったのか？

それを知るのは難しいし、イーロン・マスク本人に聞いたって、直球の答えは返ってこないだろう。

ニーダム・アナリティクスは、モデル 3 の事前予約のスピードが減速していること、そしてテスラの資本構造が「持続不可能」だとして、テスラを「売り」に格下げした。

とはいえ、テスラの事業やモデル 3 に関して、今後明るい見通しを持っている人々もいる。

アルガス･アナリティクスは以下のように述べている。

> **“There is shortage of reasons to shift focus away from Tesia and focus on precessional opportunities”**
>
> **「テスラを投資チャンスとして見るのをやめ、歳差のチャンスにフォーカスを移すべき理由はいくらでもある …」**

テスラの新機種・モデル 3 への大きな需要が生まれている。第２四半期におけるモデル S およびモデル X プロジェクトの大きな収益改善に加え、2019 年により生産コストの低いモデル 3 が同社のトップセラー車になる可能性が高いことを考慮すると … [中略] … 2019 年後半にはモデル 3 の目標総利益率 25% を達成

できるだろうと期待できる。

細かいことはさておき、テスラを投資チャンスとして見るのをやめ、歳差のチャンスにフォーカスを移すべき理由はいくらでもあるのだ。

では、テスラ株ではなければ、どこを見ればよいのだろうか？

ここでメソッドをおさらいしよう。

私達はコインの側面に立ちながら、テスラに関する論争の両方の面を見るべきである。というわけで、イーロン・マスクとテスラの背後にある動機について、私たちが知っていることを検証していこう。

私たちが確実に知っていることは？

1. テスラはモデル３の生産に意欲を示している。
2. ... 以上

正直、100% の確実性を持って言える結論は、これしかないのだ。他はすべて憶測にすぎない。

モデル３が長期にわたって売れ続けるかは、わからない。

テスラが黒字に転じるかも、わからない。

イーロン・マスクが「ふたたび」ソーシャルメディア上で癇癪を起こし、会社の価値を毀損するかどうかも、わからない。

であれば、そもそもテスラの利益率なんて考えて心配することを、やめるべきなのだ。

代わりに、歳差投資メソッドを使って未来における真のチャンスを見ていこう！

問うべき質問：

a. テスラが生産ライン外で生み出しているチャンスは何か？
b. そもそも、テスラ車の製造において利益を得ているのは誰か？
c. テスラ車は何を使っているのか？

答えは明白 ...

リチウム電池 ... しかも膨大に。

リチウム電池は先端技術であり、（現在の標準電池と比べると）効率が良く、何より高価な電池だ。

テスラがリチウムを必要としているのであれば、どこかで誰かが利益を上げているはずなのだ。さぁ、誰だろう？

モデル３や、他のテスラ車は（巨大な）リチウム電池で駆動するため、テスラは生産を最大限にまで高めるためにも、かなりのリチウム電池を必要とする。

そのリチウムの出どころは？

ネバダ州のクレイトン・バレーは、現在アメリカ最大のリチウム源として知られており、ピュア・エナジー・ミネラルズ社（証券コード：PEMIF）の管理下にある。

ぜひこの会社を見てみてほしい。ピュア・エナジー・ミネラルズ社はリチウム採掘において強い支配力を持っているだけではなく、環境に配慮するイノベーション会社でもある（テスラと仲良くするのは、ますます都合が良さそうだ）

同社はリチウム採掘に関して、より効果的かつ環境に優しい方法を開発した。これまでの蒸発法から天然溶剤法に切り替えることで、より安全かつ利益にも貢献できる方法を編み出したのだ。

テスラは同社と「現在の市場相場よりも低い所定の価格で」膨大な量のリチウムを購入する取り決めを結んでいる。

テスラに投資するよりも、ピュア・エナジー・ミネラルズに投資したほうが根本的に有利だ … ということがわかるだろうか。

同社はテスラに対してリチウムを提供するだけなので、モデル３が売れようと売れまいと、儲かる。

テスラが車を製造し続ける限り、ピュア・エナジー・ミネラルズは利益を出し続ける … たとえテスラの株主や経営陣やその他大勢が利益を出していない時でさえ。

さらに、テスラと取引をする同社に関して、おそらくより重要となる点がある。それは、同社の事業の源泉の大部分は、テスラ以外に存在するという点だ。

ピュア・エナジー・ミネラルズは、多数の企業との間で供給契約を結べる潜在的可能性を持っているのだ。

テスラが大口顧客ではないため、もしテスラが突然破綻したとしても同社が傾くことはない。単に他の顧客にリチウムを売るだけの話だ。

その点を示すために、以下のリチウムの多様な用途を記す。

エネルギー貯蓄
リチウムの最重要用途は電気自動車、エネルギー貯蓄グリッド、携帯電話、ラップトップ、デジタルカメラ、その他小型電化製品のための再充電可能バッテリーだ。再充電不可のバッテリーにも使用可。

リチウム基合金
リチウム金属は、アルミニウムとマグネシウムと組み合わさることで強固・軽量の合金になるため、装甲用塗装、飛行機、電車、自転車などに使われる。

光学ガラス・陶器
リチウムは光学ガラスや陶器の製造に使用される。

工業・空調設備
塩化リチウムは、知られている中でもっとも吸湿性に富んだ材質であるため、空調や工業用乾燥システムに使用される。

潤滑油
ステアリン酸リチウムは、多目的高温潤滑油として使用される。

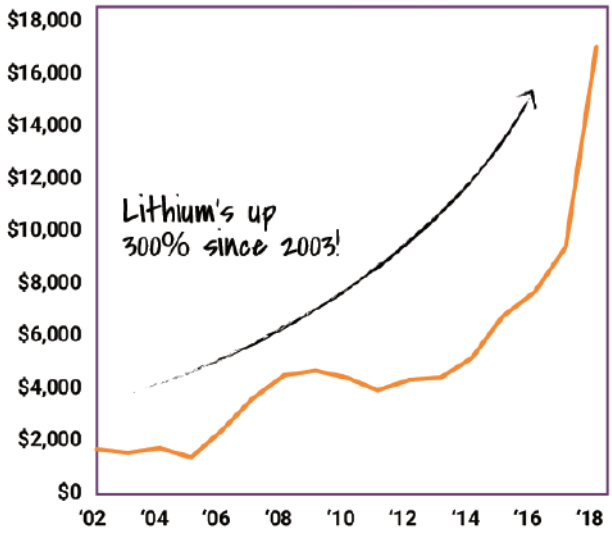
製薬
躁うつ病の治療の効果的とされる薬剤に、炭酸リチウムが使用されている。

これらの製品は、それぞれ別の市場に届けられていく。

こうして、広範囲にわたって確立された見込み顧客が多数存在することによって、ピュア・エナジー・ミネラルズは大きな収益減の可能性から守られているのだ。（テスラと取引はしたいけれど、テスラが絶対に必要、というわけではない。）

また、2003 年以降のリチウム価格チャートを見てほしい。価格は 300% 以上、上昇しているのだ！

リチウム：歳差投資のチャンス



加えて、ピュア・エナジー・ミネラルズの株価は現在9セント（2020.1.14現在3セント）なので、投資家にとっては非常にエントリーしやすい低価格になっている。

ピュア・エナジー・ミネラルズへの投資はアップル、グーグル、マイクロソフトなどを含む、「実はピュア・エナジー・ミネラルズのような会社に頼っている多くの会社」に投資するよりも、ずっと安く済む。

ゲインの可能性もグンと大きくなる。ピュア・エナジー・ミネラルズはテクノロジーとぴったりとくっついているため、テクノロジーが成長すれば、同社も成長するのだ。

ピュア・エナジー・ミネラルズの製品を見ると、これは戦略的投資のチャンスだとは思えるのではないだろうか。リチウムは多目的に使えるうえに、テクノロジーの進化にともなって需要は高まるばかりなのだから。

しかも、1株9セント以下という魅力的な株価だ。

さらに、株式から利益を得る方法は沢山ある。株価が上がっても下がっても、あなたはお金を手にできる。配当が出る場合もあるし（キャッシュフロー）、オプションで稼ぐこともできる。

私だったら、ピュア・エナジー・ミネラルズ以外のリチウムの歳差チャンスも調べてみるだろう。

他のリチウム源もあるかもしれないし、バッテリーメーカーもあるかもしれない。もしくは、今は目立っていなくても、より良い見通しを持ったテスラ以外の電気自動車メーカーもあるかもしれない。

もしある会社が魅力的でしっかり配当を払ってくれるのであれば、その会社の株を100株買うことを検討しても良いだろう。

そうすれば、あなたは2通りの方法でお金を手にすることができる。

1. 配当による収入。もしくは ...
2. 株を保有しながらオプション売りをする。

そうすれば、2通りの方法でキャッシュフローを得られることになる。配当として受け取る方法と、オプション売りという形で持ち株を貸し出す方法だ。

配当が支払われないのであれば、私だったらコール・オプションの買いを検討する。現物株式を購入するのではなく、将来に株を購入するためのオプションを購入するのだ。そして、株価が上昇した時に売る。

現物ではなくオプションを買う理由は、オプションのほうがずっと安くリスクも少ないのに、売却した時の利益は同じだからだ。

これもまた、リスクを最小限におさえながら利益を最大化する方法だ。

歳差投資™メソッドを理解し実践するのが重要な理由は、以下の通り。

1. 金持ちが使っている投資方法だから。
2. より多くのチャンスを見つけられるから。
3. リスクを最小限にできるから。

投資家として成功するということは、世界に通じている、という意味でもあるのだ。

楽観主義者の投資家は、いつか見返りがあるだろう ... と願いながら、購入して保有し続ける。

だが、もしあなたが自分の将来を自分でコントロールしていきたいのなら、願うだけでは足りない。

自らに教育を与える必要がある。サー・フランシス・ベーコンが「知識は力なり」と言ったように、知識を身につけて、大衆が歩いていない道を進んでいこう。

この情報を手に入れたあと、あなたがすべきこと ...

この情報を使って、ぜひ自らの頭で考えてみてほしい。

リチウムが気になるようなら、自分でも調べてみること。

オプションにはまだ詳しくないけれど興味を持ったのなら、自分でも調べてみること。

考えることを私に外注してはいけない。それは怠け者のすることだし、怠け者は貧乏から抜け出せない。

だからこそ、私は「テスラに投資するな」とか「ピュア・エナジー・ミネラルズに投資しろ」とは書いていない。

あなたの目の前にある選択肢だけが、唯一の道ではないことを示しているだけなのだ。

ほとんどの場合、最良の決断は、他の全員が注目している当たり前の場所から２歩進んだところに存在する。

チャンスの可動部分に気づく力を持つ必要がある。

チャンスの周りを旋回していたり、チャンスから広がっている選択肢を見られるようになってほしい。それこそが、歳差投資 ™ の根幹なのだ。

バックミンスター・フラーが友人から受けたアドバイスを繰り返そう。

「『複雑にできる事柄は、決してシンプルにしてはいけない』というのが、成功の第一法則だ」

シンプルなことを、複雑にする ― これこそ、金融業界がしていることだ。

> **“When you feel stupid it’s essier to take your money”**
>
> **「バカだと感じている人からは、お金を奪うのも簡単になる。」**

そうすることで、あたかも、お金に関しては「あなたがバカで、金融業界が賢い」かのように感じさせる。バカだと感じている人からは、お金を奪うのも簡単になる。

私の目的は、ゲーム、書籍、ウェブ商品、コーチング、金融教育コース上級編、そして今回のニュースレターなどの金融教育商品を作ることで、金融をシンプルにすることだ。

子供にも博士号を持っている人にも理解できるほど、シンプルにしたいと思っている。

あなたの選択肢や歳差のチャンスを増やすための鍵は、金融知識を高めることに他ならないのだから。

賢明に行動しよう。

ロバート・キヨサキ
エディター：The Rich Dad Poor Dad Letter

＜免責事項＞

・当社の商品、およびコンテンツは、お客様の投資判断や運用戦略のご検討にあたり参考となる情報の提供を目的として作成されたものであり、実際の投資等に関わる最終的なご決定はお客様ご自身のご判断で行って頂きますようお願い致します。
・当社の商品、およびコンテンツは、お客様の投資におけるいかなる利益も保証するものではなく、また、投資の結果によってお客様が思わぬ損害を被る可能性もあるため、投資を行われる際にはお客様ご自身で投資のリスクを慎重に検討されますよう併せてお願い致します。
・当社の商品、およびコンテンツに掲載されている情報は、当社が信頼できると判断した情報源から入手した情報等によっておりますが、当社がこれらの情報の正確性等について、全て、独自に検証しているわけではありません。当社はこれらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何らの表明又は保証をするものではありません。当社は、当社の商品、およびコンテンツの内容及び提供、並びにお客様による第三者への開示等について、お客様その他当社の商品、およびコンテンツの閲覧者に生じた一切の損害、損失又は費用について、損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害結果損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含め、これらについて債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何を問わず、何ら責任あるいは義務を負わないものとします。
・当社の商品、およびコンテンツ中における、シミュレーションやバックテストについては参考データ等のご提供を目的として作成したものであり、将来の利回りを保証するものではありません。

Rich Dad Poor Dad Letter 創刊号

発行日　2020 年 1 月
著　者　ロバート・キヨサキ
発行者　寺本　隆裕
発行所　APJ Media 合同会社
大阪府大阪市中央区南船場 2 丁目 5 番 1 2 号
クリスタファイブ 10F

©2019 APJ Media, LLC All rights reserved.

※この電子書籍の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および有償無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。